

# 第4回 Japa フォーラム

## 多様な場からみた地方創生の課題

2019年5月16日

芝原 靖典

[Japa 日本専門家活動協会]  
newseiten@japa.fellowlink.co.jp

Copyright © 2018 Japan Association for Professionals' Activities & FellowLink Corporation. All Rights Reserved.

## 自己紹介

- 四国・徳島県の吉野川の中流域（阿波町：現阿波市）で生育
- 地元大学の工学部大学院（土木計画学）を修了後上京
- パシフィックコンサルタンツ(株)を経て、(株)三菱総合研究所  
【業務】官・学・産の接点領域で仕組みづくりとその実現化に従事  
【社内】業態興し → ビジネスモデル構築 → 業務改革 → 上場
- 現在、「粗にして野だが卑ではない」生き様を追求し汗をかく
  - Japa日本専門家活動協会を主宰・代表理事
    - ✓ ブログ「仕組みの群像」 2007.12.23より
    - ✓ メルマガ「Japa.FellowLink倶楽部」 2013.08.01より
  - 早稲田大学 非常勤講師（社会システムマネジメント特論）：6年目
  - 大磯町 参与（まちづくり担当）非常勤特別職：5年目
- 専門分野
  - 学：土木計画学（交通・土地利用計画、社会資本・社会システム論）
    - » Dr.論：公共事業にかかわる土地利用問題の社会システム論的研究
  - 業：法政策・制度設計、仕組みづくり、PM/RM、経営・事業戦略

# 問題認識

- 地方創生の論議の対象から、地方・地域の空間構造の枠組みとなる「場」という空間認識が薄いのではないか。

## ■ 「場」とは何か

- **山場（深山、里山）**：全国土の66.5%（内、里山は約3割）
- **水場（川、沿岸域、海）**：全国土の 3.5%+海域
- **農場（中山間地域農地、平場農地）**：全国土の12.5%
- **まち場（都市、まち、集落）**：全国土の13.1%

## ■ 「場」の連携と分断、そして再生・再編 → 地方創生へ

- **多様な場を川筋で繋ぐ → 流域圏場**
  - 環境・生態、舟運、生活・文化、災害等の連携
  - 横断方向の鉄道・道路の発達が流域圏を分断
  - レジリエント（適応力）な地方・地域・コミュニティとしての存在へ
- **多様な場を道筋／街道筋で繋ぐ → 道場**：全国土の3.5%（道路）
  - 人・物（with カネ・情報・文化）の往来
  - 空路、高速道路・鉄道、IoT/MaaS 等による揺らぎ → 新たな価値化へ

# 山場（深山・里山）

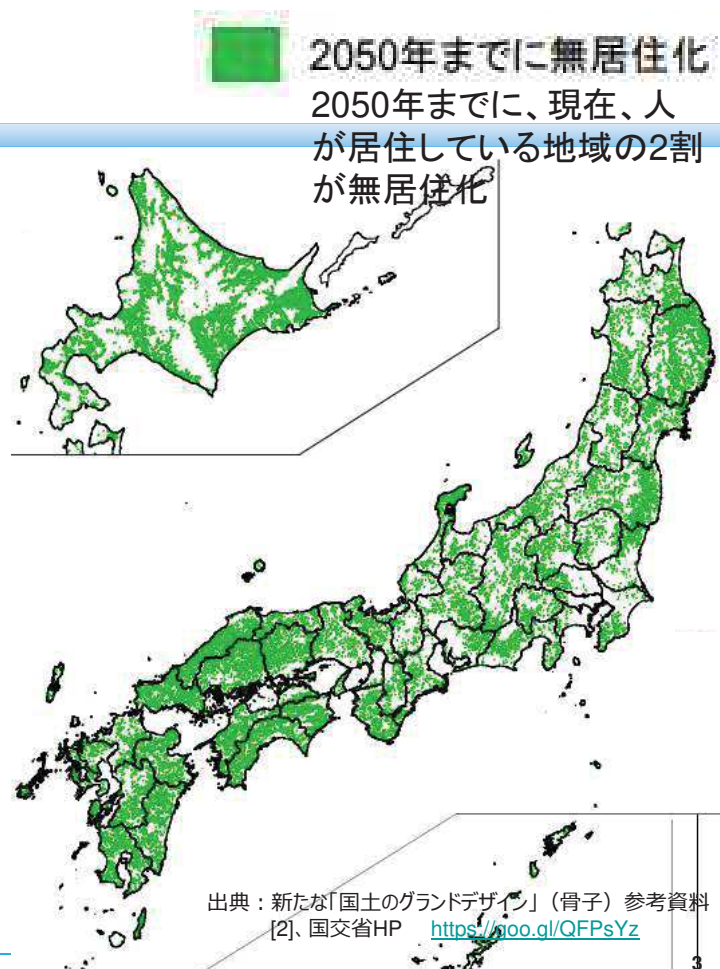
- 山場に係る現状、今後、及び地域創生への課題等

→ **農場と併せて、  
廣井氏より論点提起**

- 国土のランドスケープ「森化」社会に向けて

- 空家、無居住地域、所有者不明（管理放棄）土地等の拡大
- 人口の低密度化、地域偏在化（選択立地の進展）

→ **新たな「森」（自然）  
にどう還すか、  
どこから還すか**



# 水場（川、沿岸域、海）

- 「川」の整備（特に、堤防）と流域圏の生活・産業の変化
  - 整備の功罪：前>吉野川の氾濫が藍の連作を可能化 → 産業化  
後>川との接点（存在認識、活用）の希薄化
  - 非常時対応をしつつも、平常時の活用をすべき → 「川の駅」
  - <河川環境行政の方向> 様々な“つながり”を整備・再生し、かつての「自然をとりもどす」とともに、歴史や文化とともに育まれてきた地域と川、地域の人々と川とを“つなぎ”、「川と人の関わりをとりもどす」
- 「沿岸域（coastal zone）」の概念・認識が希薄
  - 沿岸域（日本の海岸線3.4万km：地球1周の85%相当）の価値の見直し [参考] 1位：カナダ20万km、6位：日本、9位：USA 2万km  
→ 海から沿岸域をみて発想（長距離フェリー、クルーズ船等）
- 「海」のポテンシャルを生かし切れていない
  - 海＝海水とその底地（国交省所管の国有財産）からなる総合体
  - 経済水域（水産資源、鉱物資源等）としての利用
  - エネルギー源としての海水の利用：温度差・海流・波力発電  
→ 地方創生事業のエコシステムの原資化

## 参考： 日本の海域

国土面積	約38万km <sup>2</sup> 世界60位
領海（含：内水）	約43万km <sup>2</sup>
接続水域	約32万km <sup>2</sup>
排他的経済水域（含：接続水域）	約405万km <sup>2</sup> 世界6位
延長大陸棚	約18万km <sup>2</sup>
領海（含：内水）＋排他的経済水域（含：接続水域）＋延長大陸棚	約465万km <sup>2</sup>



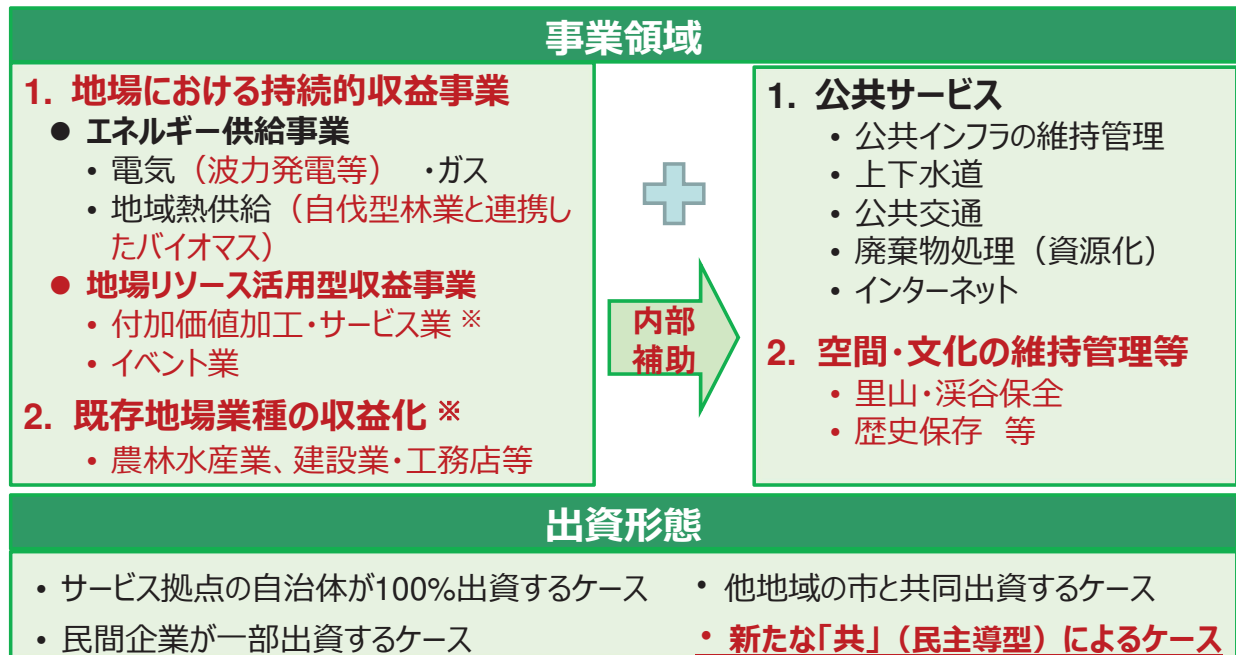
出典：管轄海域情報～日本の領海～、  
会場保安庁HP <https://goo.gl/pJUA>

本概念図は、外国との境界が未画定の海域における地理的中間線を含め便宜上図示したもので

# 参考：ドイツのシュタットベルケ (STADT WERKE)

町の事業

- 地域密着の公共サービス提供を目的に、複数のサービス提供を1つの事業体で行なうことで、受益者負担（内部補填）の形をとる**公社**



注：出典：おしえて！アミタさん <https://goo.gl/rEqAJC> に加筆（赤字）

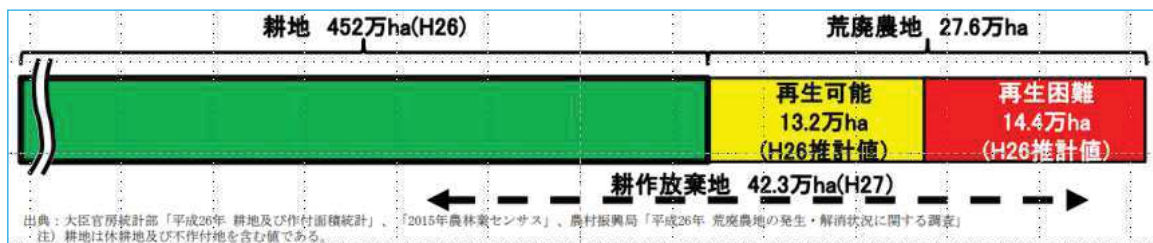
Copyright © 2019 Yasunori SHIBAHARA All Rights Reserved.

6

## 農場（中山間地域、平場農地）

- 農地法&農振法と「農地」「農業」との実態の乖離
  - 所有者が耕作放棄し始めたときに、農地活用のでこ入れをしないと荒廃農地化・山化〔非農地化〕

→ 農地空間の経済価値化 → 農業の担い手／農地活用の多様化



- 多様な「農業」の展開に向けて時間はない
  - **営農**：農産物の生産・販売を目的とする産業としての農業
  - **楽農**：非農業人を相手に農地を利用した農業的サービス提供を目的とする農業（例：観光・体験農業、クラインガルテン等）
  - **自農**：自ら食べる農産物を生産するだけの自給農

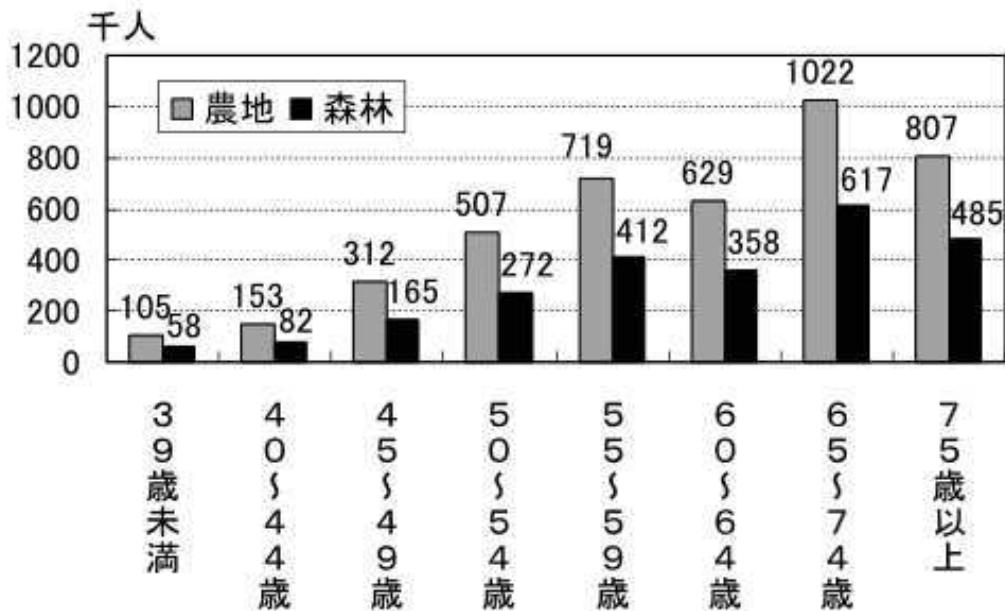
→ **山場と併せ、廣井氏より論点定期**

Copyright © 2019 Yasunori SHIBAHARA All Rights Reserved.

7

# 参考：農林地の土地所有者不明の拡大懸念

図表3 年齢階層別の農地・森林の所有者数



注釈：農地・森林を所有する世帯の家計を主に支える年齢で算出

資料：国土交通省「世帯にかかる土地基本統計」（平成20年）

出典：適切な国土資源管理を脅かす土地所有問題とその処方箋、季刊 政策・経営研究 2014 vol.1 <http://goo.gl/HKS4ts>

Copyright © 2019 Yasunori SHIBAHARA All Rights Reserved.

## 道場

### ■ 道筋／街道筋で繋がれた空間「道場」

- 土地利用と交通は一体的に語られるべきであるが、・・・。

- 「道路」面積としては、全国土の3.5%にすぎないが、「道場」としての空間域は広い

✓ ノード空間：かつての宿場町

現代の駅前広場、道の駅、IC/SA/PA、郊外大型施設等

及びその影響圏

✓ リンク空間：かつての街道筋

現代の商店街筋 → 衰退 → 沿道筋の再生は？

→ 単なる交通路としての「道路」がMaaS等によって変わるか？

→ 人・物（with カネ・情報・文化）の往来

→ 空路、高速道路・鉄道、IoT/MaaS 等による揺らぎ

→ 新たな道場としての価値創造へ

### ■ 新たな道場の創発「道の駅」の進化と地方創生との関わりと課題

→ 杉崎氏より論点提起

Copyright © 2019 Yasunori SHIBAHARA All Rights Reserved.

---

ご清聴ありがとうございました！

